



いとう
伊藤 おさむの議員レポート

ホット・ホット・越谷

平成 21 年 1 月発行 No.24

TEL 048-986-9553

E-mail osamuchan@ae.wakwak.com

〒343-0841 越谷市蒲生東町 8 番 37 号

FAX 048-989-2397

URL <http://www.starosamuchan.com/>

高齢者に笑顔を！子どもたちに夢を！地域に活力を！

増林の総合公園の隣に、越谷市初の本格的な農産物直売所「グリーン・マルシェ」がオープンしました。

この農産物直売所は、越谷市農業協同組合が市からの補助(国の補助も活用)を受け建設したもので、安全・安心で新鮮な農産物が安定的に購入できる施設として、多くの消費者に利用されています。

越谷市では、地域で生産された農産物を地域で消費する「地産地消」を進めており、この農産物直売所は、地産地消推進の拠点として、また、農業者と消費者の交流の場としての役割などが期待されています。

営業時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時 30 分 休業日：毎週水曜日(12 月 31 日～1 月 4 日)



持論

現在の政治状況は、大きく分けて自民党、民主党そして共産党の三つの勢力からなっていると考えられ、あとは混在である。

政党的判断基準はもちろん政策であるが、どの政策を優先的判斷基準とするのが問われている。

自民党と民主党はその判断が難しい。例えば、憲法を議論した場合、私が考えている理想の憲法は、九条第二項を改正し陸・海・空それぞれの自衛隊の存在を明記し、現状に即した憲法にするべきだと思いが、民主党の中にも同じ考えを持った方が多数いる。

政策とは、目標を達成するための方針のほずであるが、現在は政策ではなく政党中心の政治が行われていると言っても過言ではない。

とある自治体では、民主党の首長の下、大半の政策が違うにもかかわらず、共産党が紐付きのごとく首長に迎合しているところもある。

今年、有権者の「確かな目」が問われる一年になりそうだ。

越谷市議会議員伊藤おさむの議会報告！

「定例会報告(9月・12月)」

平成 20 年 9 月定例会市議会が、去る 9 月 1 日から 9 月 22 日までの 22 日間、平成 20 年 12 月定例会市議会が、去る 12 月 1 日から 12 月 16 日までの 16 日間にわたりそれぞれ開催されました。

定例会での一般質問(9月)

1・宿泊施設利用者に対する助成について

問 この制度は、国民健康保険に加入していれば、北は北海道から南は鹿児島まで、指定された施設に宿泊した場合、大人 2,500 円、子供 1,500 円が助成される制度だが、75 歳以上の高齢者はこの制度を利用することができなくなった。早急に対策を講じていかなければならないと考えるが？

答 基本的には、後期高齢者医療広域連合の保険事業として検討していただくほうが望ましいが、老人会やお年寄りの親睦旅行などで、75 歳を境に助成に差が付くことは望ましいとは考えていないので、今後の検討課題とする。

その他

- 歩道と車道の段差について
- 西大袋土地区画整理事業に係る住民監査請求に対する監査結果について
- 救急車の有料化について
- 男女混合騎馬戦について



定例会での委員会質疑(12月)

教育環境経済常任委員会

今回、市民の方から「青森県六ヶ所再処理工場の稼働を一刻も早く止め、閉鎖することを求める意見書提出を求める件」という請願が提出され、その審査にあたり紹介議員に説明を求めました。

私は、越谷市民の安全を担保する観点から、紹介議員に対し実際の被害状況、或いは、汚染食物の影響度を把握するために何点かの質疑をしましたが、直接、越谷市民に降りかかる被害というのが明らかになりませんでした。

また、国のエネルギー政策の観点から見ても、再処理工場を閉鎖することは、それに変わる対案が示されない限り、越谷市民のみならず、日本国民の生命と財産を担保することには繋がらないと考え、この請願には賛成できませんでした。

他方、この請願では、環境行政を危惧する市民の方々の切実な思いを感じました。

何故なら、私も「原子力」や「核燃料」という言葉には抵抗があり、それらに代わるエネルギーが開発されることを期待しているからです。

子供達を救う

意見書提出

去る十二月定例市議会において、私の所属する会派から「混合型血管奇形の難病指定を求めめる意見書」を提出し、全会一致で採択されました。

この「混合型血管奇形」とは、人間の体の静脈・動脈・毛細血管・リンパ管のうち複数の血管の先天性形成不全をいい、外傷による大量出血の恐れや、ウイルス感染等による生命の危険が常に伴う病気です。

この病気は、難病指定されていないため、患者の実態が現状では把握できていないし、病気の原因が明らかではないので、病気の治療方法も確立されておられません。

また、医療や生活の支援もなく、患者や家族にとって精神的、経済的な負担が重くのしかかっています。

このようなことから、「混合型血管奇形」を早急に難病指定し、原因の解明や治療方法の研究

究、確立を図るとともに、患者や家族が安心して生活できるようにという観点から意見書を提出しました。



八百津町役場

意見書提出

までの背景

この意見書提出のきっかけは、宮代町の加納好子議員から地方政治改革ネットという勉強会において、「宮代町に住む男の子が混合型血管奇形と闘っているから力を貸して欲しい」と相談されたことでした。そして先ず、男の子と母親に

うかではなく、同じ病気を抱えて生まれてきた子供に対し、何が出来るのかということ。

また、この病気と闘っている患者は、全て子供たちであるという事。

それらを勘案すると、一刻も早く越谷市議会からも意見書を提出しなければならぬと考えました。

今回の問題は、単なる「意見書提出」ではありません。意見書はあくまでも政治が出来る手段だと考えます。子供たちを救うためには、この病気に多くの人たちが関心を持つてくれることだと思えます。

最後に、お祖父さんが「孫にいつ治るの?と聞かれることが一番辛い」と涙を流しながらお話されたことがとても印象的で、心を強く動かされました。

市政報告会

を開催!

昨年の十二月十三日、サンシティ(桐の間)において、毎年

面会し、お話を伺いました。

今まで男の子が幾度と無く手術を繰り返し我慢したこと。足に特別な装具を付けなければ歩くことが困難なこと。友達と一緒に遊べないこと。目頭が熱くなりました。次に私が考えたのは、意見書の提出に問題点はないか?ということでした。

その一つは、ご案内の通り、この病気は患者の実態が把握されておりません。従って、我が越谷市においても把握していないことが調査で分かりましたが、越谷市における患者の実態が分からないのにそれでも良いのか。

二つ目に、現在、厚生労働省に難病指定を求め病気が二十九もあるのに、「混合型血管奇形」だけ取り上げるのはいかになものか。という二点です。私は、これらの懸念を払拭するために「混合型血管奇形の難病指定を求めめる意見書」をいち早く提出した岐阜県の八百津町議会へ、その背景や経緯など

恒例の市政報告会を開催いたしました。

来賓の方々を始め、越谷市内あらゆる地域から約一五〇名の市民にご参加いただき、私の政策や議会での発言内容、さらには議員活動報告等を説明させていただきました。



越谷市議会議員 藤おさむ 市政報告会

当日は、市政報告のみならず、地元越谷市出身の演歌歌手「松乃こずえ」さんによる歌謡ショーが行われ、皆さん時のたつのを忘れるほど、最後まで有意義な一日を過ごしました。

を伺いに行つてまいりました。そして、そこで私が知った実情を踏まえ、「混合型血管奇形を難病指定にする意見書」を提出すべきであると考えました。

岐阜県八百津

町議会へ行く

八百津町には、混合型血管奇形と闘っている患者(小学一年の女兒)と家族が住んでおり、八百津町議会では患者のお祖父さんと滝上議長が熱心にお話をしてくれました。



松乃こずえ



プロフィール

松乃こずえ

- ・越谷市東越谷に生まれる
- ・東越谷小学校で地元の少年野球チームに入る
- ・中央中学校
- ・八潮高校
- ・東京女子体育大学
- ・中学から大学までソフトボールを一〇年間続ける
- ・平成二十年六月二十五日『大阪物語』でメジャーデビュー

結論

今回の調査で学んだことは、我が越谷市に患者がいるかど